

lus from 1/3 to angle of valva, consisting of short spines in rows. Ostium opening in front.....*E. tokui*

Acknowledgment

I wish to express my hearty thanks to Dr. H. INOUE, Ôtsuma Woman's University, Tokyo, for his kindness extended to me in various ways. My grateful acknowledgment is made to Messrs. H. FUSE, K. IJIMA, H. TOSHIMA and T. WATANABE, for their kindness in offering me invaluable specimens.

Kontyû, Tokyo, 42 (4): 394. December 25, 1974

札幌でルイヨウボタンを食べているコブ オオニジュウヤホシテントウ

片倉晴雄

KATAKURA, H.: *Henosepilachna pustulosa* Feeding on *Caulophyllum thalictroides robustum* in Sapporo

オオニジュウヤホシテントウ群については、最近になって、従来の食草とは系統的にもまったく異なるメギ科のルイヨウボタンが、新しい食草として脚光をあびている。安富 (1973, 昆虫と自然, 8 (6): 2-8) によれば、北海道内の3型 (基本型, 層雲峡型, 札幌型) のコブオオニジュウヤホシテントウは、実験的にはルイヨウボタンを好食し、また、天塩の上音威子府では、同地の“コブ”がルイヨウボタンを食べていたのが確認されている。さらに安富は、同論文において、黒沢 (1953, 応用昆虫, 9 (1): 12-15) が札幌における“コブ”の新食草として報告したホソバアキカラマツが、外見上ルイヨウボタンに似ていることを指摘した。私は、1973年7月~8月に、札幌市円山でルイヨウボタンを食べている“コブ”を認め、黒沢氏にその旨をお伝えしたところ、折り返し黒沢氏よりご返事をいただいた。この私信によると、同氏論文のホソバアキカラマツはルイヨウボタンの誤同定であり、同論文でキカラスウリとされたものがミヤマニガウリであったことを、論文発表後に気づいておられた由である。ここに同氏のお許しを得て訂正させていただく次第である。なお、この円山のほかに、札幌市内三角山と札幌市郊外東簾舞の2個所でルイヨウボタンを食べている“コブ”を確認している。円山のものも含めて、いずれも付近でアザミを食べている“コブ”と形態的にはまったく同じで、いわゆる札幌型、または Form P-III (KATAKURA, J. Fac. Sci. Hokkaido Univ., (VI-Zool.), 19 (3), 印刷中) である。